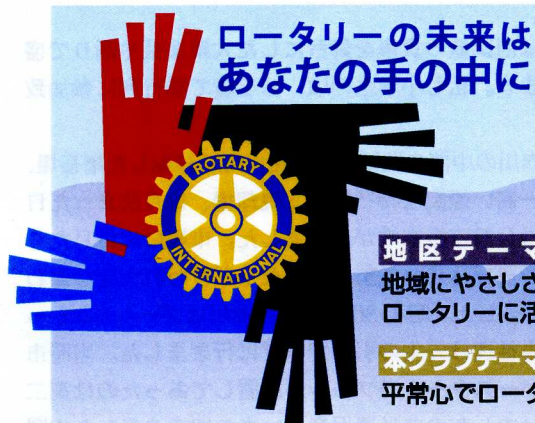




国際ロータリー第2800地区

鶴岡ロータリークラブ

第2485回(本年度第25回)例会 2010.1.26

● 例会日/毎週火曜日(12:30~13:30)

● 例会場/東京第一ホテル鶴岡
鶴岡市錦町 2-10 Tel. 0235-24-7611

クラブホームページアドレス <http://www.tsuruokarc.org/>

地区テーマ

地域にやさしさを
ロータリーに活力を

本クラブテーマ

平常心でロータリーを



寒鰯汁家族例会報告

1月26日(火)湯野浜温泉の華夕美日本海に於いて、寒鰯汁家族例会が開催されました。

遠路はるばる東京東江戸川ロータリークラブから8名、吹雪の中車を走らせ会津若松南ロータリークラブから14名を含め、参加者総数は50名。(家族会

員を除けば当クラブ会員の参加者の方が少なく、両クラブに圧倒されました。)

頂戴した名産の小松菜焼酎や会津の地酒を飲みながら、地元出身の料理長の手による数種類の寒鰯料理を味わい、懇親と友情をさらに深めることができました。(会報委員会 榎野隆博)



2月は... 世界理解月間



出席報告	会員数	40名
	出席	21名
	出席率	55.26%
	前々回確定出席率	78.95%

RI会長/ジョン・ケニー 地区ガバナー/佐藤豊彦 会長/富樫松夫
会長エレクト/佐藤孝子 副会長/青柳孝治 幹事/阿部純次 会報委員会/榎野隆博・石田 雄

事務局:鶴岡市馬場町11-63 鶴岡産業会館3階 TEL (0235) 28-3375 FAX (0235) 28-3376
E-mail:tsuruoka08@rid2800.jp

会員年男スピーチ「鶴岡より古い大宝寺②」

(株)佐藤組 代表取締役 佐藤 友行 君

ここに建っていた屋敷の一棟が後に松ヶ岡開墾地に移され、近年開墾地の敷地に移築され公開されています。ここには新徴屋敷が建つ前ですが荘内藩の大きな火薬庫がありました。18トンあまりの煙硝火薬が備蓄されておりました。この火薬が戊辰戦争で大変役立ったといわれております。

火薬はもしもの事故に備えて土塁を設けますので、蔵の敷地は大変大きなものだったろうと想像出来ます。

さて大宝寺第1町内の大通り、鶴岡から東田川に抜ける鶴岡藤島線の道路沿いは東田川方面より入ってくる人々も多く市内の外れにあったわりに結構な商店街となっておりました。鶴岡への東からの入口という交通の要衝でもあったわけです。又赤川から採取した砂利、砂の運搬、販売の業者が多くおりましたので、トラック、馬車引き等が多く行き来し賑やかであったと思います。馬車引き達の為に馬具を扱う店、乗馬ズボンを仕立てる店等もありました。後にその馬車引き達は馬のかわりにダンプ業や建設業へと業態を変えてゆきました。いまでもダンプ業は阿彦組、青木建材、田川砂利工業、建設業は小野寺建設、浅賀建設、太田建設等があります。昭和30年代当時赤川のたもとに赤川企業の東北屈指の砂利プラントがありました。(砂利、砂の選別工場です)この会社の最盛期には300人の従業員と30億の売り上げがあったと言われております。今のお金で換算すると約100億位の売り上げではなかったかと思えます。当時飛ぶ鳥を落とす勢いであった赤川企業は、その好調な売り上げから生コン工場、建設業、コンクリート二次製品工場、ガソリンスタンド、道路清掃業とどんどん事業を拡大してゆきました。しかし東京での道路清掃業に過剰設備投資を重ねたために採算割れを起こし、又河川法の改正により河川からの砂利砂の採取が出来なくなった事などから昭和42年会社は倒産を余儀なくされました。手を広げすぎて放漫経営もあったと言われておりました。社長の菅原主純氏は戦時中は陸軍の軍属としてシンガポールで事業をやっていたという事ですが、終戦と共に引き揚げ、会社を立ち上げ赤川企業を戦前からの役所の人脈で創業したという事です。主純氏は後に鶴岡市議会の議員も務めました。若造の私から見てもなかなかの人物で古武士然とした風貌と凛とした雰囲気を持った方でありました。私が知っている限りああいった感じの印象深い方は他に元荘内銀行頭取の金井勝助氏、又鶴岡商工会議所会頭の早坂源四郎氏位のものだったと思っております。近づきたい方ではありましたが、私が相談事で訪ねますと手づくりのコーヒーでもてなしてくださったのが思い出されます。

三川橋の手前に内川にかかる西三川橋があります。そのたもとに水神社が建っていましたが昭和50年、内川の改修と道路拡幅の為移転を余儀なくされて昭和50年に道路を隔てた反対側に移転をしました。かつて赤川や内川の氾濫にあった村人が水害への恐れと夏の水飢饉への祈願を込めて建立したのですが、毎年夏の8月5日の例祭で第1町内の有志の方々がお祭りを盛上げてくれています。祭りには袴のいでたちの子供達の謡行列が町内を練り歩き、祭

り広場では旧国鉄の貨車を舞台にした大衆演芸や踊りで盛り上がります。私も小学生の頃、袴を着て謡行列に参加致しました。

内川と赤川の中間の地域に今は庄内町に移転した屠畜場、当時鶴岡一高い煙突を持ったゴミ焼却場、毎月決まった日に市の立つ公設家畜市場がありました。市場には毎月たくさん牛が運び込まれ威勢のいいセリが行われ大変な賑わいではありました。昭和30年代夏の赤川はプールのなかった五小の生徒達は先生の引率で泳ぎに行きました。当時市内のナンバースクールでプールが設置してあったのは第二小学校だけでしたので私達児童はいまの切添の見わたす限りの新田田んぼの中の本路を隊列を組んで二小のプールに入りに行きました。二小のプール建設は私共の会社が造りました。プールはまだ普及していない時代でしたので、その後プール造りの実績で市内や羽黒のプールを数多く手がける事ができました。赤川の河川敷には先程お話しをした赤川企業が砂利を採掘した大きな穴が池になってたくさんありました。その中に川から入り込んだ魚が入っていましたので、子供達の雑魚しめ場となりました。魚はいしもち、はや、美しい色をしたオイカワ等が入っておりました。父の子供時代には川カレイもいたと聞きましたが私は見た事がありません。生き物の豊富な時代であったと思います。

大宝寺は国道7号線も通っております。この大動脈はどちらかというと大宝寺より鶴岡駅前商店街に賑わいをもたらした感があります。昭和30年代当時はいまのように郊外に大規模商業施設がなかった為、商店街が繁盛しまして駅前には庄内交通のバスターミナルや佐金デパートが人々を集めました。大宝寺の文化のひとつに大宝寺焼があります。資料によりますと大宝寺松原に窯があったとの事です。が、いまでは窯跡を知るすべがありません、言い伝えではただダンプ業の阿彦組のあたりではと言われております。確証はございません。大宝寺焼は素朴な味わいの実用品で美的な価値よりもその存在意義に価値を見出されているところでもあります。今ではまともに見られるのは致道博物館のみになってしまいました。大宝寺焼のコピーを庄内町の梵天窯で生産して庄内のおみやげのひとつにしております。

委員会報告

出席委員会

●ゲスト

東京東江戸川 RC、森本弘副会長以下8名

会津若松南 RC、尾崎友良会長以下14名

親睦委員会

メイクアップされた方

佐々木 喆彦 阿部 純次 青柳 孝治 早 寄 弘

本間喜美子 石田 雄 加藤 恒介 藤川 享胤

西川富美子 加藤 亨 佐藤 孝子 真島 吉也

樋渡美智子 丸山 隆志 塚原 初男 嶺岸 禮三

樫野 隆博 斎藤 昭 富樫 松夫 牧 衛

佐藤 友行